

令和5年度 校内研修計画

1. 研究テーマ

－運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む児童の育成－
～自己決定の場や対話的な活動を取り入れた体育学習を通して～

2. テーマ設定の理由

AIなどの新しい技術の急速な発達による社会の変化、世界各地で起きている異常気象や自然災害等、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態、VUCA時代を迎えている。このような時代において、学校教育では、変化の激しい社会を子ども達が生きていくために必要な資質・能力の育成が求められている。『小学校学習指導要領解説体育編』（平成29年告示、以下『解説体育編』）では、「豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、『知識・技能』『思考力・判断力・表現力等』、『学びに向かう力・人間性等』を育成することを目標として示す」としている。また、これらの資質・能力を育成するためには、「運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決するなどの学習が重要である」と示されている。体育の学習において、運動の楽しさや喜びを味わう中で、自己や集団の課題を見付け、その解決に向けて取り組む学習過程を通して、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することが重要だと考える。

本校では、沖縄県教育委員会より令和4年度から3年間「体育・スポーツ推進校」として指定を受けている。令和4年度は、領域を器械運動系に限定し、教材研究及び研究授業を行ってきた。自分がやってみたい場や自分の力に合った場を子ども達自身で選ぶことのできる「自己決定の機会」を学習活動の中に仕組んだことで、意欲的に学習に参加する児童が増えてきた。また、関わり合いツールの活用やキラリタイム（学びの交流）を設定することで、技のポイントや遊び方の工夫などについて、進んで伝え合う姿が見られた。一方、課題を設定する力や課題解決に向けた児童相互の関わり合い、体育科における言語活動などに課題が見られ、課題解決を通じた成功体験を児童に味わわせるまでには至らなかった。令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、「体育の授業はあまり楽しくない・楽しくない」と回答した本校児童は男子3%、女子7%であった。これらの児童を対象に行った「今後どのようなことがあれば、今より体育の授業が楽しくなると思いますか」の質問において、すべての児童が「自分に合った場やルールが用意されていたら」「できなかったことができるようになったら」と回答している。自分の力に応じて課題や練習の場、ルールや用具等を自己決定することやできる喜びを味わわせることで、運動に対する愛好的な態度が育まれると考える。

そこで本研究では、運動の特性に触れる楽しさを味わうことのできる教材や教具の工夫を行う。運動の楽しさを味わい意欲的に活動することで、「もっとできるようになりたい」といった思いを高め、自己や集団の課題形成に繋げる。課題については、自己決定の場や対話的な活動を通して試行錯誤させながら解決へと導き、できる喜びを経験させたい。そうすることで、運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む力を育むことができると考え、本テーマを設定した。

3. 研究仮説

体育科の学習において、自己決定の場面を設定し対話的な活動を工夫することで、運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む力を育むことができるであろう。

4. 研究主題について

(1) 運動の楽しさを味わうとは

松田 (2009) は運動の楽しさを「運動の特性にふれる喜び」と述べており、運動の特性を「効果的特性」「構造的特性」「機能的特性」(図1)の3つの視点から捉えている。また『解説体育編』では、「豊かなスポーツライフの実現するためには、各種の運動の特性に触れる楽しさや喜びを知り、運動と健康の保持増進との関係を実感することが不可欠である」と示されている。さらに白旗 (2019) は「特性に触れる楽しさを重視した導入の工夫が主体性(意欲)に大きく影響する」と述べている。各種の運動の特性をとらえ、その特性に応じた楽しさや喜びを児童に触れさせることで、児童が運動の楽しさを味わい、運動に意欲的に取り組むことができると考える。

本研究では、運動の楽しさを児童が味わえるように、運動の特性を大切に授業づくりを行っていく。各種の運動が持つ特性を明確にし、単元指導計画を立てる。その際、児童の実態を考慮し、易しい運動から始めたり、運動を楽しむための基礎感覚作りを行ったりするなど、「これなら自分でもできそうだ」という気持ちを見ることができるようになりたい。

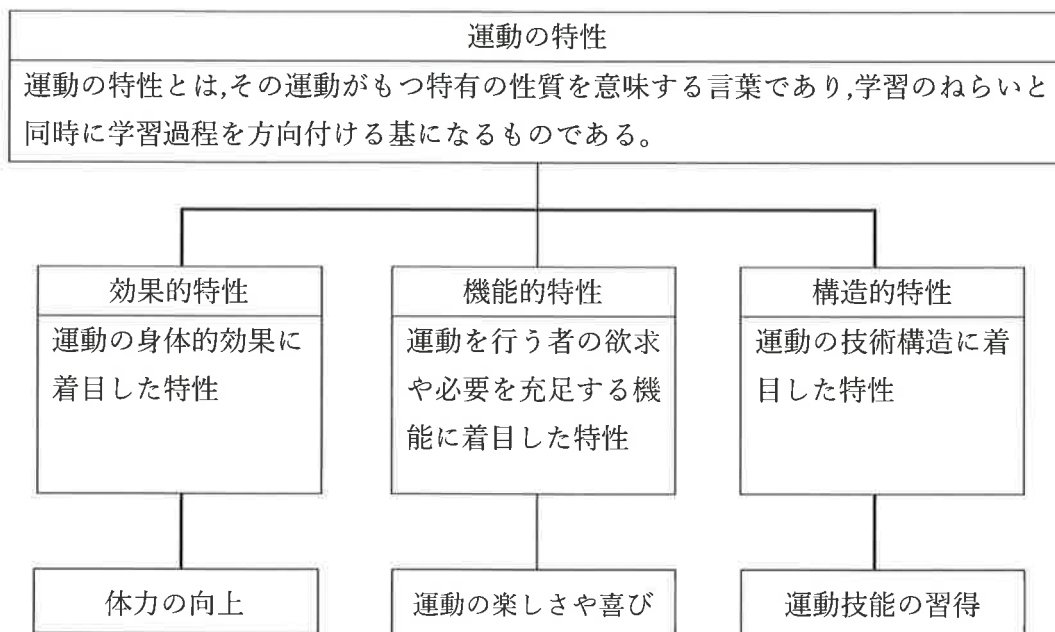


図1 3つの運動の特性 (千葉県教育委員会)

(2) 自己や集団の課題に進んで取り組む児童の姿とは

中央教育審議会答申（平成 28 年 6 月）では「習得した知識及び技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること等に課題がある」「健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分」と示されている。また、本校では学校評価全体計画の重点目標として、「目的意識を持ち、様々な人と協働し、課題解決ができる児童の育成」と定めている。自ら課題を形成し、主体的に課題解決に取り組む力を高めることが重要だと考える。白旗（2019）は、課題解決の過程を「目標の設定」「状況の認識」「課題の選択」「活動の決定」と段階で分け示しており、それを基にして、課題解決の過程を（図 2）に整理した。「上手になりたい」「勝ちたい」「もっと〇〇できるようになりたい」といった児童の思いや願いと、自分やチームの状況を比較させることで、課題が明確になり、そこで初めて課題解決に向けた活動を決定することができると思う。

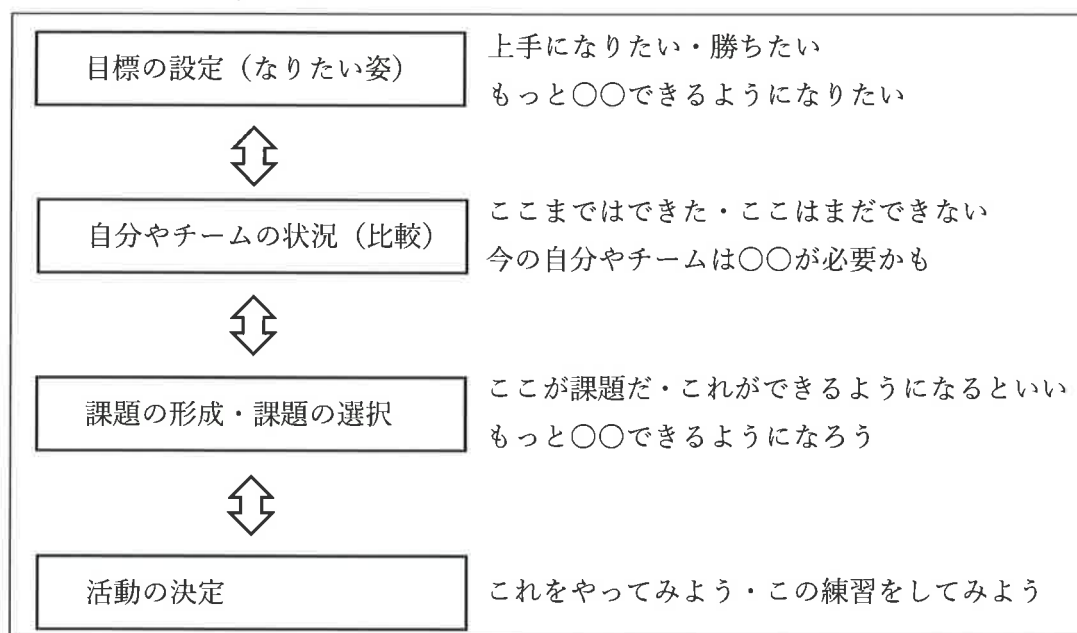


図 2 課題解決の過程

本研究を通して、児童の変容を掴むため、課題解決に取り組む児童の姿を（表 1）のように捉えることとする。

表 1 目指す児童の姿

学年	目指す児童の姿
低学年	運動遊びをする場や練習の仕方などを自らの力に応じて工夫したり、選択したりすることができる。
中学年	自己の運動の課題を見付けることができる。 課題解決に向けて、運動をする場や練習の仕方などを工夫したり、選択したりすることができる。
高学年	自己やグループの運動の課題を見付けることができる。 課題解決に向けて、運動をする場や練習の仕方などを工夫したり、選択したりすることができる。

5. 年次計画

令和4年度（一年次）研究テーマの設定と指導体制の整備（理論研究）
令和5年度（二年次）研究テーマの追求（授業実践）
令和6年度（最終年次）研究発表会（公開授業）

6. 研究の方針

- (1) 研究テーマや研究内容・研究計画については、全職員の共通理解のもとに推進する
- (2) 研修は、校内研修日や年間の計画に沿って行う。(原則として月1回)
- (3) 学年部会（低・中・高学年）を設け、学年担任以外の教諭は、学習環境部会に属するものとする。
- (4) 授業研究会について
研究仮説を意識した研究授業を実施する。
 - ①全体授業研究会（主事招聘授業）を年間2～3回実施する。
(令和4年度主事招聘授業経験者、初任研、2年研、3年研は除く)
 - ②全体授業研以外の学級は、年間1回以上の公開授業を行い、学年メンバーで授業反省会を持つ。尚、他学年の参観も可とし指導案（本時のみ）は全員分用意する。
 - ③校外に向けた全体公開授業を1回実施する。
- (5) 研究テーマに関する教科以外の研修も実施し、教師の指導技術の向上に努める。
- (6) 行政研修、その他校外での研修の機会を多く持ち、全職員の共有化を図る。
- (7) 学びプロジェクト部会（研究推進委員会を兼ねる）を置き、必要な内容を話し合う。
(メンバー…学推主任・研究主任・授業改善リーダー、隣学年1名)
※各学年主任・学習環境部代表は必要に応じて参加する。

7. 研究内容

- (1) 研究テーマや研究内容についての理論研究
- (2) 年間指導計画の実施及び改善（重点化・弾力化・系統化）
- (3) 単元を見通した指導計画の作成
- (4) 運動の特性を生かした教材・教具の研究
- (5) 発問の研究（子どもの中に「問い」が生まれる発問、思考が広がる発問、学びが深まる発問）
- (6) 声かけの研究（肯定的フィードバック、矯正的フィードバック、励まし）
- (7) 対話的な活動についての研究（体育科における言語活動）
- (8) 学習意欲を高めるための学習環境の整備
- (9) 全学年系統性をもった授業スタイルを確立するための研究
- (10) 評価の研究（発言・ノート・ワークシート・ポートフォリオ・パフォーマンス評価・自己評価等）
- (11) 家庭や地域社会との連携を図った学習指導

8. 令和5年度研究構想図

船越小学校教育ビジョン

重点課題：目的意識を持ち、様々な人と協働し、課題解決ができる児童を育成する

【学校教育目標】

- かしこい子（知）
- 心豊かな子（徳）
- たくましい子（体）

【児童の実態】

- 体育の学習が好きな児童90%
- 1日の運動・スポーツ実施時間30分未満の児童30%
- 持久力に課題がある。

目標と児童の実態

目指す児童像

低学年

運動遊びをする場や練習の仕方などを自らの力に応じて工夫したり、選択したりすることができる。

中学年

自己の運動の課題を見付けることができる。
課題解決に向けて、運動をする場や練習の仕方などを工夫したり、選択したりすることができる。

高学年

自己やグループの運動の課題を見付けることができる。
課題解決に向けて、運動をする場や練習の仕方などを工夫したり、選択したりすることができる。

主題設定の理由

- 自己決定することで内発的動機付けを促し、進んで体育学習に取り組むことができるようにするため。
- 対話的な活動を通して、仲間と関わり合いながら課題を解決する力を育むため。
- 苦手意識を克服し、運動に対する愛好的な態度を育むため。

研究主題

運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む児童の育成
～自己決定の場や対話的な活動を取り入れた体育学習を通して～

研究仮説

体育科の学習において、自己決定の場面を設定し対話的な活動を工夫することで、運動の楽しさを味わい、自己や集団の課題に進んで取り組む力を育むことができるであろう。

自己決定の場面の設定に向けて

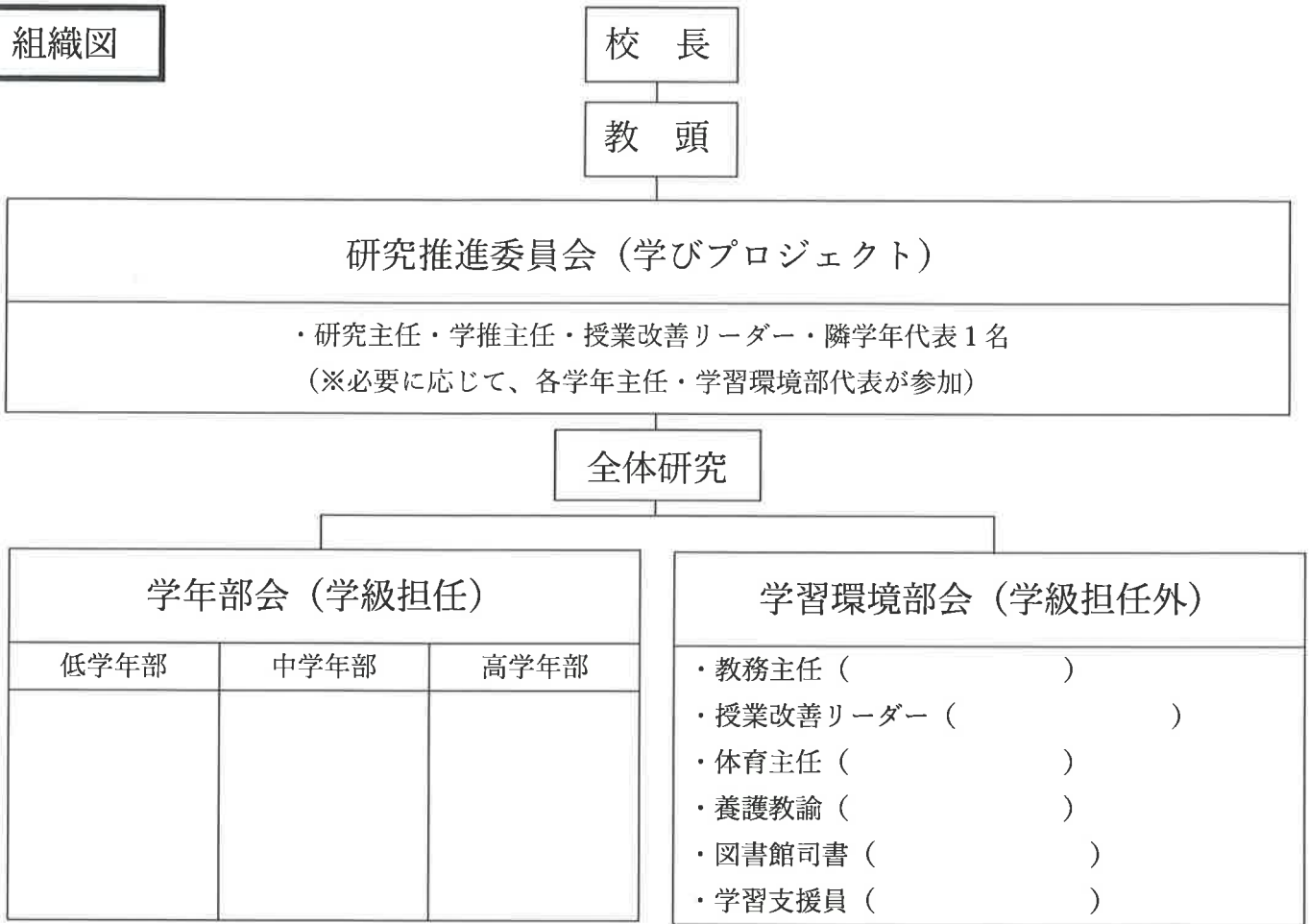
- ①教材・教具の工夫
- ②単元を見通した指導計画の作成
- ③課題形成の支援

対話的な活動の工夫に向けて

- ①発問の工夫
- ②体育科における言語活動の充実
- ③課題解決過程の支援

9 研究組織と活動内容

組織図



活動内容

組織名	活動内容
研究推進委員会 (学びプロジェクト)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画の検討、研究の推進 ・理論研究、研究内容の検討 ・本年度の研究の反省及び次年度の研究計画の検討 ・全体会への提案事項の検討 ・全体授業研究会の計画検討
研究主任	<ul style="list-style-type: none"> ・研究全般についての企画、運営 ・外部人材との連絡調整 ・研究推進委員会、全体研修会、全体研究会への提案 ・学年部会、学習環境部会との連絡調整 ・資料の収集と提供
全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の計画や研究内容、推進上の諸問題についての研究協議と共通理解 ・理論研究、実技研修 ・各種研修会からの伝達講習 ・全体授業研究会の実施 ・実践活動の評価
隣学年部会	<ul style="list-style-type: none"> ・全体授業研における協力や情報交換 ・教材研究、指導案作成、資料作成 ・隣学年授業研究会 (運営・記録・反省)
学年部会	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の授業研究の実践及び研究、まとめ ・児童の実態把握 ・年間指導計画の作成、見直し ・教材研究、指導案作成、資料作成 ・教材、教具の開発、準備、保管
学習環境部	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者、職員の意識調査の実施、集計、分析 ・校内研修に関する掲示教育、環境の整備 ・研究授業や日々の活動記録の保管 (ノート記録、写真、動画等) ・授業研究会会場の準備

10.研修計画

	月 日	内 容
一 学 期	4/4 (金)	全体研①「エピペン講習会」
	4/5 (金)	全体研②「今年度の校内研修についての共通理解」
	4/28 (金)	全体研③「理論研修・実技研修」
	5/12 (金)	全体研④「性教育講演会」
	6/2 (金)	全体研⑤「AED講習会」
	6/30 (金)	全体研⑥「研究授業Ⅰ 年組 授業者 (研究主任)」
	7/26 (水)	全体研⑦「夏季校内研修」
	7/27 (木)	全体研⑧「夏季校内研修」
	7/28 (金)	全体研⑨「夏季校内研修」
二 学 期	9/22 (金)	全体研⑩「研究授業Ⅱ 年組 授業者 ()」
	10/27 (金)	全体研⑪「理論研修・実技研修」
	11/24 (金)	全体研⑫「研究授業Ⅲ 年組 授業者 ()」
	12/15 (金)	全体研⑬「全体公開授業 年組 授業者 ()」
	12/22 (金)	全体研⑭「本年度の校内研修の反省」「研究集録作成」
三 学 期	1/19 (金)	全体研⑮「本年度の成果と課題について」
	2/16 (金)	全体研⑯「次年度の研究テーマについて」